

人の中で生きていく

クラブハウスゆうせん 北野 敬子

私は今の仕事を“天職”だと思っている。この世の中で自分のやりたいことを見つけられて、さらにそれを仕事にできる人なんて一握りだろう。私はそれができている。それだけでも充分幸せだと思う。また、自分でこの道を選んだという意味でも納得してやっているのだから、何か辛いことや困難なことがあるとその時は落ち込んだり、悩んだり辛い気持ちでいっぱいになってしまうが、全体を見たときにじゃあこの仕事がストレスかと言うとそうはならない。それは辛いことがある一方で楽しいことややり甲斐が大きいからだと思う。そして、何より“人”に恵まれていると思う。

私は大学を卒業後、静岡県の施設に就職した。そこで仕事をしている中で自分で意識していたことが「仕事とプライベートを分ける」ということだ。私は利用者さんと接している時は自分の悩みや不調を見せないようにしていた。それは、利用者さんが相談したいと思ったときに私が落ち込んでいたり、調子が悪そうに見えたら声を掛けにくいのではと思っていたからだ。その為、前の施設ではよく利用者さんから「北野さんって悩みなさそうだね」と言われていた。それでよかった。

前述したようにクラブハウスゆうせんではメンバーとスタッフは対等な関係にあり、一緒にクラブハウスを運営していく仲間である。仕事とプライベートを分けたいと考えていた私はゆうせんに転職する際にメンバーとの距離が近くなるのではないかと不安を感じた。

実際に働いてみると私の心配はなんでも無かった。というより、日々の忙しさと新たに「施設長」

という役職がついたことで重圧を感じてしまい、自分を取り繕う余裕が無かった。仕事とプライベートとか、メンバーとの関係とかそんなことを考えている余裕もなかったのだからのまの自分でいくしかなかった。

私のストレス源は「理事」「施設長」という役職だろう。私はこれは世の中の中間管理職の人たちと同じだと思っている。上司と部下の間に挟まれてという部分と役職が付いているため責任がついてくる。私は精神保健福祉士だが、小さな事業所であるため法人事務、役員会の運営管理、人事、労務、経理等あらゆることを行い、把握をしていないといけなかった。また、自立支援法による色々な施設基準等も把握していないといけなかったため、そういったことが苦手な私にとってはとても苦痛だった。何度も辞めたいと思ったし、夜泣きながら寝たことも何度もあった。

でも、今も続けてこられたのはゆうせんのメンバーとスタッフがいたからだと思う。メンバーと他愛もない話をしている時はとても楽しい。事務仕事や心が疲れ切った時にメンバーと話すととても癒される。また、自分で言うのも何なのだが、ゆうせんのスタッフはとても優秀だ。皆の手助けが無いと私一人じゃ何もできない。そう気づいてから皆に頼ることにしたし、スタッフのことを信頼できるようになってから随分と気持ちが楽になった。今の私は昔に比べたら少し自然体で人間らしく仕事が出来ていると思う。

世の中のどんな仕事でも「人間関係」はつきものでそこから離れることはできない。もちろん人

なので合う人、合わない人はいると思っている。
でも合わないからといって敵意を出してしまうと
関係が悪化するだけ。それよりも自分から好意を
出していくことはとても大切だし、人を信頼する
ということはとても重要だと思った。

人と関係を作っていくには自分を出さないと
いけないし、それはとても勇気がいることだ。実
際私もとても苦手で、この文章を書くのもとても

勇気がいった。でも、色々な人と信頼関係を築け
れば悩みや不安があっても乗り越えていけるし、
自分も楽になる。それを今とても実感している。
ストレスを減らすことはできないけれど、それを
共有してくれる人がいて助けてくれる人がいて励
ましてくれる人がいれば、人は生きていけるので
はないかと思う。

